

令和3年度 第2回岡崎市地域福祉計画推進委員会
会議録

日時 令和3年10月22日(金) 14:00～
場所 岡崎市役所東庁舎2階大会議室
出席者 長岩委員、大堀委員、水野委員、前田委員、長坂(秀)委員、茂刈委員、加賀委員、木全委員、蜂須賀委員、鈴木委員、杉山委員、本田委員、加藤委員、檀委員
欠席者 野尻委員、長坂(宏)委員
事務局 福祉部：中川部長
ふくし相談課：齊藤課長、山下副課長、岩瀬係長、平塚主事、高木主事
社会福祉協議会：小野局長、本主任
傍聴者 なし

1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) 第4次岡崎市地域福祉計画 実践編について

(2) 第4次岡崎市地域福祉計画 施策編について

長岩委員長 よろしく申し上げます。議事は2つでしたが関連しておりますのでまとめてご説明をお願いします。

事務局 資料1、2に基づき説明

長岩委員長 ありがとうございます。ご意見・ご質問があれば伺いたいと思います。
檀委員 施策編の29ページ社協の取組にオンラインの話が出ています。次の30ページ行政の取組にある「感染症対策の推進」、これは少しイメージが湧きませんでした。全体的に説明いただいた内容は前向きな充実した内容だと思います。なんとかしてコミュニケーションを取りたい、つながりたいと思い、我々の学区でもオンライン化を推進していますが、年代格差というか、いろいろな障害があります。この30ページの「感染症対策の推進」はこういうことじゃないかなと私は思います。

長岩委員長 ありがとうございます。しばらく with コロナの想定のもとで、地域交流もオンラインを活用してやる、そこを促進するということになっていて、行政の取組がこれとどう対応しているかということです。檀委員のご指摘は、社会福祉協議会が「オンラインを活用した事業の実施」に取り組もうと思うと、対象になる方々もツールを持っているかなどのリテラシーの問題があるので、そこをもう少し踏み込んで、行政の取組と連動させたほうがいいのではないかと、というご指摘だと思います。

檀委員 コロナが終わっても、やはりデジタル格差というのは年代間によってはあ

- るので、それをサポートする支援もやっていただきたいと思います。
- 事務局 この情報発信というのは、事業をやるために必要なツールという意味合いと、送受信したりするツールのふたつあるのではないかと意見を承り思いました。35 ページ「円滑なコミュニケーション」に行政としてそういう情報を発信、あるいは情報を市民に享受してもらう、そういった情報の環境を何か支援できないか、これは今後検討して、皆さまにお知らせしたいと思っています。現在、デジタルトランスフォーメーションという取組の趣旨を踏まえた記載を追加するという形で検討していきたいと思っています。
- 長岩委員長 ありがとうございます。このコロナ渦でいろいろな地域でサロンが開けない、見守り活動なども訪問がし辛くなっているという状況もあり、オンラインを通じて行うことなどが 29 ページのイメージなのかなと思います。これは、地域ではどうなのでしょう。教育委員会ではオンラインを活用していますか。
- 水野委員 一部の学区では、そういうものを活用して交流などを行っているところもあると聞いております。このコロナ渦ですので、オンラインができればそれは良いことだと思います。
- 杉山委員 二点基本的なことをお聞きします。岡崎市の計画では、まずその概要を主眼として、その次に重点事項、そして重点事項を実施するための次々の施策、というふうアップダウンの形式の計画が多いと認識しています。一点目に、実践編を切り分けた理由を知りたいです。また、実践編の構成を見ると、最後に出てくる学区別福祉計画が主眼のように思われます。施策編が従来の計画の構成になっているのに対して、実践編は結論が最後に来ている。二点目、構成順がまったく逆になっている理由が何かあればお聞かせください。
- 事務局 地域福祉計画の認知度が絶望的に低く、7パーセントでした。もう少し地域福祉計画が身近になったらと考えました。従来の行政計画であれば、一冊の冊子になったと思います。行政、社会福祉協議会の考え方は1冊でまとめる、市民が興味のある身近なところなどはもう一冊の実践編という形で冊子を別に作る。せめて実践編だけでも読んでいただければ、地域福祉計画の関心度が上がるのではと考えて、今回2冊の形になりました。形としては2冊になっておりますが、施策編と実践編をあわせて第4次岡崎市地域福祉計画だと思っております。
- 長岩委員長 趣旨はよくわかります。認知度7パーセントからこういった発想が出たのはありうると思います。
- 茂刈委員 第1、2章からいきなり第3章で重点プランになると読み辛いです。
- 事務局 第3章の「重層的支援体制整備事業の推進」が多岐に渡る内容になっており、先に示した方が後の基本方針とまとまりが良いのではということで、重点プランを先にもってくる章立てとしました。
- 長岩委員長 茂刈委員のご指摘、現行計画と順番が変わっているというのもその通りで

すし、先ほどの説明もわかります。前田委員、何かご意見はありますか。

前田委員 章立てとして本来は基本方針があって、その中で最後に重点項目がくるのかなという気はいたしました。

長岩委員長 一般的には方針が先に来る。この体系がいいかどうか、事務局でお考えいただければと思います。

長坂委員 第3章、第4章、そのままの内容でいくのだったら、重点プランという名前を適当な名前に変えるという方法もあります。

事務局 事務局として章立てはこのままいきたいと思っています。表現や章立てを含めて検討させていただけたらと思います。

長岩委員長 わかりました。書いてある中身についてのご意見はありますか。

加藤委員 三点質問します。一点目、コミュニティソーシャルワーカー、相談支援包括化推進員がどういう立場なのかということ。二点目、ヤングケアラーという文言が出て来ています。教育委員会でも調査をしていると思うのですが、どれ程の人数が市内にいるのかわかりたいです。それから三点目、成年後見センターについて、この利用者数や利用率を教えていただければと思います。

事務局 このコミュニティソーシャルワーカーと相談支援包括化推進員は、同じ地域づくりをする人で、それぞれの制度で呼び方が違っていています。

事務局 ヤングケアラーのカウントは残念ながらしておりません。それと、成年後見支援センターが現在扱っているのは数件しかございませんが、今後増えると思います。

長岩委員長 ありがとうございます。

檀委員 学区別計画について、46学区やっていただいて大変だと思います。各現場の計画や実態を表す貴重なものです。地域福祉計画と我々の学区では、現実とのギャップがあります。進捗会議に行政も参加していただければ、良い効果が生まれるのかなと思いました。

事務局 学区別計画をつくる福祉座談会を「ミソ端会議」という名称で各学区実施しています。来年度も「ミソ端会議」を実施して学区別計画の進捗管理を追っていきます。市役所からも「ミソ端会議」に可能な範囲で参加いただいていますので、連携して来年度以降も取り組んでいきたいなと思っています。

長岩委員長 本田委員、子ども関係で何かご意見ありませんか。

本田委員 岡崎市は子ども関係のサポート体制がしっかりしていると私自身は思っています。総合支援センターが立ち上がっていますし、保護者に対しても支援する形が作られているので、子どもたちへの体制は充足していると思っています。

鈴木委員 重層的支援体制の整備により、今までのような縦割り行政の弊害みたいなことはなくなったのか。今はどうなのか疑問に思います。

事務局 相談支援包括化推進員が全て解決するというのではなく、「私の担当ではない」といったことがないように、相談支援包括化推進員が先導、コーデ

ィネートをします。

長岩委員長
蜂須賀委員

では最後、蜂須賀委員いかがですか。

ボランティアの活動のきっかけづくりとか担い手の育成というところを入れてもらって喜んでます。コロナの関係で会議ができない、集められないということで、オンラインでやろうにも、そういう環境にない方も多く、比較的年配の方は苦手意識から引かれてしまうので、その辺りが非常に苦しんでいます。

長岩委員長

ありがとうございました。時間になりましたのでこの辺までとさせていただきます。要対協の位置づけをこの計画でどうするのか。それから学区福祉委員会のサポート、そこの活かし方みたいなのもう少しあってもいいのではと少し気になりました。

事務局

ありがとうございました。要対協のところは社会福祉法より児童虐待防止法のほうが強いイメージがありまして、協力はしていきますが、家庭児童課が担当になりますので協議しながら取り組んでいきます。

4 その他

事務局

今後の計画策定スケジュールの報告

長岩委員長

今日はここまでにしたいと思います。事務局にお返しいたします。

5 閉会

事務局

長時間にわたり、ありがとうございました。それでは以上をもちまして第2回岡崎市地域福祉計画推進委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上